

令和三年度 第一回例会

観世流

緑泉会

令和三年

五月三十日(日)

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂



「鶴亀」シテ 津村 禮次郎 (撮影 前島写真店)

お客様各位

昨年春の活動自粛要請により二月に延期公演を行ったため、本年の緑泉会は五月の本会が初回となり、年明けの二月までの四回公演となります。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

二月現在新型コロナウイルスの感染はまだ収束から程遠い状況ですが、文化芸術による心の充実と、能公演による疫病平癒の祈りの力を信じて、私たちは可能な限り公演を続けて参ります。

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、今回は、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」、ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催します。



「藤」シテ 鈴木 啓吾 (撮影 駒井 壮介)

【お客様へのお願い】

- ・ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- ・チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先（メールアドレス、または電話番号）をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に記帳をお願い致します。
- ※万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- ・当日の社会状況により、使用可能な座席の指定ならびに館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従って下さい。
- ・上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音が障りになる場合もございますが、ご了承下さい。
- ・上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

能 Noh..... 鶴亀 Tsurukame..... 杉澤 陽子

狂言 Kyogen... 雷 Kamihari..... 三宅 近成

能 Noh..... 藤 Fuji..... 津村 禮次郎

能 鶴 亀
皇帝 杉澤 陽子
大臣 森 常好
從臣 館田 善博
從臣 梅村 昌功
官人 前田 晃一

大鼓 安福 光雄
太鼓 梶谷 英樹
小鼓 岡本 はる奈
笛 栗林 祐輔

狂言 雷

雷 三宅 近成
医者 三宅 右近

兼 平 中所 宜夫
仕舞 隅田川 墨 敬子
地謡 新井 麻衣子
河井 美紀

能 藤
里女 津村 禮次郎
藤ノ精 旅僧 則久 英志
從僧 御厨 誠吾
從僧 野口 琢弘
里人 高澤 祐介

大鼓 原岡 一之
小鼓 飯富 孔明
笛 一噌 庸二

附祝言

後見 桑田 貴志
永島 充
地謡 坂 真太郎
中森 貫太
中所 宜夫
中森 健之介

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

【終了予定 午後四時十五分】

能：鶴亀（つるかめ）

唐の玄宗皇帝の宮殿の春の節会に百官卿相がうち揃つての慶賀の宴の有様を舞台上に再現する。

舞台上に後見が大宮の作り物を引き立てると、官人（間狂言）が登場し、皇帝の月宮殿への御幸を触れ、卿相雲客に参内を促す。続いて皇帝（シテ）、大臣（ワキ）、從臣（ワキツレ）が登場すれば、宴の席となり、臣下の君を拝する声は天に響く。壮麗な宮殿の庭には長寿の象徴としての鶴と亀が飼われていて、天界の蓬莱山のような。大臣の勧めによつて鶴と亀（の役を担った楽人）が舞い、それに続いて皇帝が舞う。莊重な楽の舞は四季の美しさを現出し、雲客の唱和が霓裳羽衣の曲となれば、天子（皇帝）の舞も山河草木国土豊かに千代萬代の榮えを祈念する。そしてやがて天子は御輿に乗り長生殿に還御する。

作者不詳。演能の古記録はないが、風流という翁に付随する芸能から派生したのもとも考えられ、その起源はかなり古いものように思われる。

狂言：雷（かみなり）

戴医者が都では誰も治療に来てくれないので東国でひと稼ぎしようと武蔵野にやつて来ると、広い野原で雷に見舞われる。逃げまどつていと雷が現れて、地上に落ちた際に腰を痛めたので治療するように頼む。戴医者や名乗りながらひとかどの治療を施し、鍼治療に至つては鬼のような雷を叱りつける有様。治療代まで要求し、とうとう末代までの庇護を約束させてしまふ。

仕舞

兼平（かねひら）

今井四郎兼平は木曾義仲の乳兄弟であり、巴御前の兄にあたる。栗津の合戦の最中、主君義仲の討死を知り、馬上で太刀を呑むように啞えて頭から落ちて自害する。無骨な男の壮絶な最期を描く。

隅田川（すみだがわ）

人買いに掠られた我が子を探して、東国の果ての隅田川までやつて来た狂女は、渡し舟に乗ろうとして自分の身の上と、伊勢物語の故事に言寄せて渡し守に強く訴える。

邯鄲 楽アト（かんだんがくあと）

一炊の夢の故事に知られる物語。邯鄲の里の宿で仙人の枕に眠つた盧生は、夢で楚国の皇帝

となり榮華を極めていた。その絶頂の日々は次第に早送りのように流れ、五十年が瞬く間に過ぎて目が覚める。

能：藤（ふじ）

万葉集にある、大伴家持と共に越中の国多忙の浦を訪ずれた縄麻呂（なわまろ）謡ではツナマロ）が詠んだ「多忙の浦底さえ見ゆる藤波をかざして行かん見ぬ人のため」という歌は、和漢朗詠集にも採られて良く知られていたらしい。本曲はこの歌をたよりに藤の花の精を登場させて、夏へ移り行く春の名残りを描いている。

都の僧（ワキ）が加賀の国から善光寺詣を思い立つ。多忙の浦に行きかけ見事な藤に見惚れて、思わず「おのが波に同じ末葉の萎れけり藤咲く多忙のうらめしの身ぞ」「新古今集 慈円の歌」という歌を口ずさむと、どこからともなく現れた女（前シテ）が「自分と同じような零落の身」と藤を落しめるような歌を詠んだことを咎めたる。女はせめて「多忙の浦や汀の藤の咲きしより波の花さへ色に出でつ」「（続後拾遺集 藤原房実の歌）の歌あたりを詠むならともかく、「同じ末葉の萎れぬる」など詠むのはあまりに風雅に遠くて花が可哀想だと僧を難じる。さらに縄麻呂の歌まで引くので、その教養に驚いた僧が誰何すると藤の花の精だと答えて姿を消す。

入れ代りに現れた所の者（間狂言）に藤の花の由来を尋ねると、家持が「藤波の影なる海の底清みしづく石をも玉とぞわが見る」と詠みその返歌に縄麻呂が「多忙の浦底さえ見るゆる」と詠んだ事などを語つて聞かせる。

その夜僧はその場所で見聞するが、鳥が不穩に鳴き、春の強風に波音も凄く眠ることが出来ないでいると、藤の花の精（後シテ）が現れる。妙法華経の功德により変化自在の菩薩となり得たことを喜び、歌舞をなして僧をもてなした。春の過ぎるのを惜しみ藤咲く多忙の浦の美しさを讃える曲舞の節は、春夏秋冬の移り行きの中で特に春から夏へかけて盛りの藤の花に朝霞のかかる美しき、その紫の色の深さを謡い、続いて笛の音に導かれる序之舞となる。再び謡が始まると舞姫の美しさは千代の榮えを祝う松によつて二層引き立ち、柳や梅を表す音曲まで尽して月に紫の羽袖を翻すと見えて姿を消す。

2021. 5.30 (日) PM1:00 (開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9
☎ 03-3491-8813

JR・東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩 7 分
香港園手前の道を左折し約 400m 直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



入場料

会員券 (年4回) 一般 20,000 円 学生 10,000 円
1 回券 (当日券) 一般 6,000 円 学生 3,000 円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

杉澤 陽子 TEL&FAX 03-6326-6645
津村 禮次郎 TEL 042-386-2131
FAX 042-386-2132

令和3年度 第2回例会 9月19日(日)

能… 千手 Senju …………… 中所 宜夫
能… 鶯飼 Ukai …………… 桑田 貴志